

佐藤 先生

日増しに寒さが厳しくなってきた今日この頃ですが、ペアレンツ
キャンプの先生方におかれましては、ますますご活躍のことと
存じます。

この度、1年3ヶ月の支援を無事卒業させて頂きました。

担当して頂いた佐藤先生をはじめ、鈴木先生、津原川先生には
本当にお世話になりました。感謝の気持ちでいっぱいです。
ありがとうございました。

娘は小学一年生の時に不登校になりました。

入学してすぐの4月、5月は何の問題もよく通っていたので、
すっかり安心していた6月上旬の朝、突然腹痛を訴えて
行きたくないと泣きだし、行き渋るようになりました。

それまでの私といえは、目先の困難から娘を守ってあげる
ことが親としての役割だと思っていました。

幼い頃から人見知りかどど、どこに行っても私にべったり
だった娘に、私を知らず"知らず"の内に手や口を出し、助けて
あげなさい、という思いが強くなっていった気がします。

子育てのゴールが「自立」にあることをすっかり見失い、矢張りして指示を出す、正に過干渉な育児をしてしまっていました。

娘が学校をお休みするようになってから、私は不登校に
関する書籍やネットを読み漁り、娘の状態が「母子分離
不安」であること、そしてそれが「私の過保護・過干渉に
よるものだ」ということまではおぐに判断出来ました。

「家庭教育を変えなければ!!」とろ思いにものの、実際どう
すればいいのか、この接し方で合っているのかな...? 正解が
分からないまま過ぎていく日々不安だけが募っていきました。

スクールカウンセラーの先生も親身になって相談にのって下さり、
「娘さんは絶対大丈夫! いくつか試してみようになりませんか。
焦らず頑張ってみよう。」と励まして下さいましたが、「いくつか」が
いつなのか分からない不安は大きく、どうしても焦ってしまう
気持ちを軽減することが出来ませんでした。

そんな状態で迎えた夏休み明けの9月、「ママがいれば
学校へ行ける」という娘の気持ちを後入れ、母子登校を
始めました。

教室の一番後ろに座り、登校から下校まで娘と一緒に学校で過ごす毎日。

安心出来る状態で、少しずつまた学校生活に慣れていくと
思っていたのですが、なかなか好転していくさざし
が見られず、私は精神的にも肉体的にも消耗していきま
した。このままでは良くないと、主人と相談して、母子登校のケースも
多く支援しているしゃったペアレンツキャンプさんに指導して
いたとごとうと決めました。

佐藤先生とご相談しながら、私が教室から退出している
時間を増やしたり、様子を見ながら距離をとり始めると、
娘はまた学校から遠のいていきました。そして10月には
結局不登校状態に戻ることになりました。

それでもこの時には佐藤先生に週3回電話で
ご相談が出来、都度家庭内での適切な対応方法を
教えて頂いたことで、安心感が大きく、精神的にも
助けて頂きました。

お休み中の冷野家庭内対応は、私達夫婦にとって辛い

期間ではありましたが、お陰で12月から訪問カウンセラーの先生方に入っていたけど、娘はすぐに慣れて、スムーズに訪問カウンセリングをスタートさせることが出来ました。

そして遂に佐藤先生に登校乗り換えをして貰った日、「〇月△日から学校へ行きます」と、娘は私達の前でしっかりと登校を誓ってくれました。今でもその姿は目に焼きついていて、思い出すだけで涙がにみあげます。

それからの娘は、訪問カウンセラーの先生方に交えられ、体調に登校の準備を進めて行き、宣言した通りの日に復学を果たすことが出来ました。

現在娘は進級し、二年生の3学期を迎えました。はっぴやっぴや甘えていた一年前の彼女とは別人の様にたくましくなりました。復学してからは、体調不良以外のおり休みもありません。毎日「行ってらっしゃい」と見送り、「おかえり」と家で迎えられる日々が本当に有難く幸せだなあ、と感じています。

「私も本当に学校に帰れてよかったと思ってるんだ」と、復学後娘は何度か口にあることがありました。さて彼女自身、戻りにいけれど小布てふんざりがつかぬいじの葛藤と戦っていたのだと思います。

そしてそのふんざりをつける手伝いは、やはり親である私達には難しく、ハロレンツキャンプの先生方にお厚いお願いして本当に良かったと思えました。

これから娘は何度も色々な壁にぶつかり、様々な失敗を経験していくと思います。そして強く大きく成長していく彼女を見守っていくのが、今とても楽しみです。

佐藤先生に指導して頂いたことをこれからも忘れず、「肝っ玉母さん」を目指して頑張っていくたいと思います。本当に有難うございました。

ハロレンツキャンプの皆様の今後ますますのご活躍をいよいよお祈り申し上げます。

2018年1月